

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の福祉事業5訓を毎朝のミーティングで唱和をしている。理念に基づいた部門別実行計画書を作成し、職員会議の場で共有し、上期下半期で評価を行っている。	法人の「経営理念」「福祉事業5訓」に地域密着型サービスの意義を明示し、事務所への掲示と毎朝の朝礼時の唱和で共有を図っている。「いいねと思える事業所」を今年度のキャッチフレーズとし、年度初めに職員全員に配布している。理念をもとに「部門別実行計画」を作成し、職員会議で共有し、上期・下期で実践状況を確認し理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いきいき100歳体操の場所を地域に貸し出している。また、居宅介護事業所、訪問介護事業所と交代で地域にコミュニティに参加している。	自治会の回覧板に毎月発行する「オアシス通信」を添付し、地域に向けて事業所の取り組みや活動について情報発信している。地域コミュニティの会議に参加している。施設3階の研修室を地域の「100歳体操」に毎週開放し、福祉避難所として登録する等、地域貢献を継続している。利用者が地域とつながりを持てるよう、外食や喫茶、バラ公園への外出等の外出行事を再開し、買い物ツアーや季節の外出行事等の実施も企画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機能訓練の一環で外歩きを行っています。その中で、ゴミ拾いをする事で地域貢献させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を実施している。利用者、家族代表、自治会長、介護保険課職員、包括職員、社会福祉協議会、大学教授の構成員から報告をもとにご意見を頂いています。	利用者・家族代表・地域代表(自治会長)・市介護保健課・地域包括支援センター・社会福祉協議会・知見者(大学教授)を構成委員としている。2ヶ月に1回開催し、令和4年11月から集合開催を再開している。利用者状況・事故ヒヤリハット事例・取り組み内容・行事等を報告し、意見・情報交換し議事録を作成している。	運営推進会議の議事録をホームページに掲載する、玄関等に設置・掲示する等、公開することが望まれる。

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課へは毎月必ず行くが、なかなか事業所の実情を話せるところまでいっていない。地域包括支援センターには、緊急時対応の依頼があることがあるので受け入れ可能であれば受け入れをしている。	運営推進会議を通して、市の介護保険課・地域包括支援センターとの連携がある。管理者が月1回以上市役所へ赴き、介護保険課等と連携を図っている。市のケースワーカーと連携し、利用者支援を行っている。緊急対応を要する事例や困難事例について、地域包括支援センターと協働し取り組んでいる。	
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関する研修を実施しています。 今年度は10月実施予定。 不適切ケアチェック表を活用し振り返りを実施している。	身体拘束をしないケアを実践している。年間研修計画に沿って、「身体拘束排除」に関する研修を毎年実施している。研修は職員会議の中で行い、参加できなかった職員は資料配布と研修報告書の提出で周知を図っている。Eラーニングによる研修も活用できる体制がある。毎年「不適切ケアチェックシート」による職員個々の振り返りを行い、集計結果を改善に反映できるよう取り組んでいる。事業所の玄関は施錠しているが、レクリエーションに外歩きを取り入れる等、閉塞を感じないように支援している。	
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を毎年実施。 不適切ケアチェックを行い、振り返りを実施している。	「高齢者虐待防止」についても、「身体拘束排除」と同様の方法で、研修の実施と「不適切ケアチェックシート」の活用等により、不適切ケアの防止に取り組んでいる。気になる言葉かけや対応については、管理者が朝礼で定期的に注意喚起を行っている。管理者が定期的に個人面談を行い、積極的に職員の意見を聞く機会を設け、職員のストレスや不安がケアに影響しないよう取り組んでいる。法人としても、ストレスチェックの実施、メールによるアンケート、相談窓口の設置等の体制を整備している。送迎時やモニタリング訪問時等に家庭状況や家族の介護負担の把握に努め、必要に応じてサービス調整を提案する等、家庭での不適切介護が未然防止できるよう支援している。	

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、7月に研修を実施。現在のご利用者でも対象の方がいます。今後も必要性があれば、関係機関と連携を図りたいと思っています。		「成年後見制度」についての研修も、同様の方法で令和5年7月に実施している。現在も制度利用の事例があり、利用者の状況や金銭管理についての報告や後見人訪問時の対応等、事業所として制度利用を支援している。制度利用の必要性や相談等があれば、管理者が市役所や地域包括支援センターと連携し支援している。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用前に契約に訪問しています。単位数や加算の話など普段馴染みのないことで分かりにくい部分は特に別紙で料金シュミレーション表を持参して説明しています		サービス利用の希望があれば、見学・体験利用に対応している。ニーズをもとに小規模多機能サービスの特徴を説明したり、パンフレットに沿って通いサービスでの1日の流れを説明したり、別紙で料金のシュミレーションを提示する等、わかりやすい説明に努めている。契約時には、契約書・重要事項説明書・同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。契約内容の改訂時は、改定内容について新旧対照表を作成し、管理者が訪問して説明し書面で同意を得ている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の訪問時にご意見を頂いています。またアンケートを実施してご意見を反映できるようにしています。		管理者(介護支援専門員)が毎月モニタリング訪問を行い、利用者・家族の意見・要望を把握し支援経過記録に記録している。職員が送迎時・連絡帳・電話等で把握した意見・要望は、主に朝礼・申し送りノートで共有している。把握した内容は管理者が集約し、内容に応じてサービス調整・居宅サービス計画・日々の支援等に反映できるよう対応している。毎年、法人が利用者・家族アンケートを実施し、集計結果をサービスや運営に反映できるよう取り組んでいる。	

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が定期的に個人面談を実施して、意見を聞くように心がけています。会議の場ではなかなかいえないことであったり、1対1になり本心を聞ける機会を大事にしています。	管理者が定期的に職員に個別面談を行い、個別に率直な意見を聞く機会を設けている。毎月正職員会議を実施し、事業所運営や利用者支援等について検討し方向性を決めている。正職員会議の内容をもとに職員会議で検討し、職員の意見等を反映できるよう取り組んでいる。職員会議に参加できなかった職員には議事録を配布し周知を図っている。日々の検討事項は朝礼で検討し、申し送りノートで共有している。法人がメールによるアンケートを毎月実施し、職員が意見等を法人に伝える仕組みを整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	面談の際に仕事に関する思いや悩みを聞き取り、働きやすい環境にするにあたり何を変えていくかを一緒に考えてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法定研修の実施。研修計画兼報告書を採用し実施しています。外部研修の機会が少ないので研修の行く機会が少なくなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修の実施を予定しています。小多機間同士であったり、特養やデイサービス、居宅と1人1事業所となりますが研修予定。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問時に、不安に思うことを聞き取りしています。ご利用時に毎回声掛けして人に慣れてもらうように心がけています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月の訪問の際に困りごとがないか、サービスについて不安がないか、介護負担がないか確認しています。また、その都度、お電話での相談も受け付けていますのでご要望があればすぐに対応できるように努めています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問前の事前情報から必要なサービスをあらかじめ検討している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い慣れてくると職員でも言葉遣いや態度が馴れ馴れしくなることもあるので、尊敬の念をもって関係を構築している		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担も考えながら、ご本人ももちろんご家族へも寄り添えるように訪問時に話を傾聴している		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人などと交流ができるようにサービスの調整をしている。	利用中に家族等の訪問があれば面会できるよう支援したり、友人・知人と交流できるよう配席や利用日の調整を行う等、馴染みの人との関係継続を支援している。今後は買い物ツアーや季節の外出行事等を再開し、馴染みの場所への外出を企画している。	

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮をしている。コミュニケーションがとりやすいように職員も間に入り対応している。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サ高住入居されたご利用者のご家族様より入居後しばらく連絡をとり様子を聞いていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の訪問時に意向の確認を行っている。今のままでいいと言われることも多いですが、その人にとっての過ごし方や小多機内での過ごし方の提案を検討している	利用開始の際に把握した利用者の思いや暮らし方の希望、意向は、フェイスシート・基本情報シートに記録している。毎月のモニタリング訪問で思いや意向の確認を行い、支援経過記録に記録している。職員が日々の支援の中把握した内容は、「気づきシート」や職員会議で共有している。把握した内容は朝礼や申し送りノートで共有し、内容に応じて居宅サービス計画・過ごし方・レクリエーション等に反映できるよう取り組んでいる。利用者からの把握が困難な場合は、家族からの聴き取りをもとに、利用者の意向に沿った支援につなげるよう取り組んでいる。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を聞き取ることでレクリエーションや過ごし方に活かすことが出来るように把握に努めている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りと、利用時の様子を見ながら把握できるように努めている。		

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的な電話連絡での情報収集と報告、担当者会議での意見交換をして計画書に落とし込んでいる。</p>	<p>フェイスシート・基本情報シートをもとに初回の居宅サービス計画を、居宅サービス計画をもとに個別援助計画を作成している。個別援助計画ファイルを設置し、計画内容の周知を図っている。サービスの実施状況や利用者の様子等は、介護ソフトのケース記録に記録している。介護支援専門員が毎月モニタリング訪問を行い、支援経過記録・「モニタリング表」に記録している。必要時は随時、定期的には、6ヶ月に1回、居宅サービス計画の見直しを行っている。見直しの際は、「モニタリング表」でのモニタリング・評価を行い、サービス担当者会議を開催している。会議は自宅で行い、利用者・家族、利用があれば訪問看護・福祉用具事業者等関係者が参加している。個別援助計画は、6ヶ月に1回「個別援助計画評価表」で評価し、居宅サービス計画をもとに見直しを行っている。</p>	<p>下記取り組みが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェイスシートの定期的な更新。(現在時期を検討中)</li> <li>・居宅サービス計画見直し時の、再アセスメントの実施。</li> <li>・居宅サービス計画と個別援助計画の連動。</li> <li>・個別援助計画評価表による評価と見直し後の個別援助計画の連動。</li> <li>・計画にもとづいたサービスの実施状況が明確になる記録の工夫(介護ソフトの種別欄を活用する等)</li> </ul>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>タブレットを活用し会議記録の入力を行っている。また、連絡ノートの活用もして情報共有が出来るようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族が見守りカメラで異変に気づいた際に事業所へ連絡いただき、訪問し対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人の支えとなっている。家族の存在や宝塚という生まれ育った場所、自宅で過ごしたいという気持ちを尊重してサービスの調整をしている。</p>		

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期受診が難しくなってきたご利用者ご家族へ、訪問看護と連携をしながら往診医を依頼。</p>	<p>利用者個々の主治医をフェイスシート・居宅サービス計画書に記載し把握している。通院は家族同行を基本とし、状況に応じて事業所が同行支援している。通院受診が難しくなった場合は、訪問看護と連携しながら、利用者・家族に往診医について情報提供している。自宅での往診を基本としているが、状況に応じて事業所への往診もある。受診(通院・往診)についてモニタリング訪問時等に把握した情報は、支援経過記録に記録している。訪問看護・事業所への往診の記録は、訪問看護師・往診医が記録している。今後は、支援経過記録等に、事業所としての記録を残すことを予定している。受診についての情報は、内容に応じて朝礼・申し送りノートで職員に周知を図っている。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の情報は、連絡帳へ記載するようにしています。バルーンカテーテル留置さえている方の排尿量や水分量を記載している。変化があればすぐに連絡相談している。</p>	/	/
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時病院への情報提供と退院カンファレンスの参加希望のお知らせをFAXしている。</p>	<p>入院時は、「基本情報シート」と要請に応じた資料により医療機関に情報提供している。地域医療連携室とは主に入院時・退院前に情報交換し、入院中は家族に連絡し情報収集している。家族・医療機関と連携して早期退院に向け支援し、退院前にサービス調整や自宅の環境整備等を行っている。退院時はサービス担当者会議を実施し、退院後の支援方針を確認している。入院・退院に関する経過等は支援経過記録に記録し、内容に応じて朝礼・申し送りノートで職員に周知を図っている。</p>	

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化、終末期の方はご利用ないが、方針としては、事業所としてできることの説明。	現在までに、重度化・終末期対応の事例はない。法人・事業所としては、重度化・終末期対応を行う方針である。重度化を迎えた段階で、利用者・家族に事業所の方針と事業所で出来ること・出来ないことを説明し、利用者・家族の意向に応じて、主治医・訪問看護と連携し支援に取り組むこととしている。毎年、「ターミナルケア及び医療について」研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応、事故対応の研修を毎年実施。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回災害想定の実施。 避難場所の確認、経路の確認、動き方の訓練を行っている。	年間計画に消防訓練を2回、防災訓練を2回計画し、「非常災害時の対応及び消防避難訓練の実施」研修も実施している。直近では、令和5年6月に施設合同・昼間想定・利用者参加で消防の総合訓練を実施している。防災訓練については、令和4年9月は風水害訓練で自宅・避難所への避難方法を確認し、令和5年1月は地震訓練で宝塚市のシェイクアウト訓練に参加している。備蓄リストを作成し、水・保存食を備蓄している。市と福祉避難所協定を結び、段ボールベッド・毛布等を準備している。	1月に予定している消防訓練では、夜間想定の実施することが望まれる。 職員会議を活用する等、訓練に参加できなかった職員への周知を明確にすることが望まれる。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用が長くなってこられているご利用者や勤務に慣れている職員の言葉遣いが悪くなっていることがあるので接遇研修や毎朝の朝礼で定期的に接遇の話を行っている。	毎年、プライバシー保護・接遇・認知症ケア・身体拘束排除・高齢者虐待防止についての研修を実施し、人格尊重・誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を継続的に設けている。「不適切ケアチェック表」による自己の振り返りも毎年行い、集計結果をもとに意識向上に取り組んでいる。言葉かけや対応について、管理者が朝礼で定期的に注意喚起を行っている。写真や映像の使用については、契約時に目的別に文書で意向確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身でしたいことを決めて頂いている。作業療法などは選択して選んでもらえるように準備している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問時やその都度、ご本人の希望に添えるようにご本人、ご家族から聞き取りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類をご自身で選んで頂いたり、必要があれば一緒に買いに行くことや、ご家族へ本人の希望を伝えている。		

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1. 2か月に1回、食べたいものを聞き、提供できるように行事計画を立てている。毎月の楽しみとして全国のおやつを取り寄せている	炊飯と汁物調理は事業所で行い、委託業者から届く食事を湯煎して提供している。献立には、季節の食材や行事食等が取り入れられている。刻み食・ミキサー食等、食事形態への対応は事業所で行っている。粉もの祭り(たこ焼き・お好み焼き)・ひな祭りのケーキ寿司・そうめん流し・スイカ割り・おはぎ作り・バレンタインチョコ作り・おでん等、利用者の希望や季節感を取り入れ、見て楽しんで食べて楽しめるよう企画している。日常的には下膳に、行事の際はおやつ作りに、可能な利用者が参加できるよう支援している。毎月の楽しみとして、ダーツで選んだ各地のおやつを取り寄せている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定の変化を確認している。水分摂取量が少ない方に関してはチェック表にて水分量の記載をして、ご家族、訪問看護と連携をとっている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員の付き添いや介助にて口腔ケアを全員実施している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が行えるように日中は定時でのトイレ誘導、希望時のトイレ誘導を行っている。	自立・ベッド上での介助・カテーテル留置等、個人差が大きい状況である。日中は定時・希望時のトイレ誘導により、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。実施状況は、介護ソフトの排泄記録に記録し把握している。介助方法や排泄用品について検討事項があれば、管理者層が職員の意見を集約して朝礼や申し送りノートで共有し、家族の了承も得て、現状に即した支援につなげている。職員間の報告の際に周囲に留意する等、プライバシーへの配慮について周知徹底に努めている。	

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かすことができるように、昼食前の体操と、14時ごろに体を動かすレクリエーションを取り入れています。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴の対応でプライベートに配慮した入浴提供をしています。1日に入れる人数に限りがあるので、ご本人、ご家族と相談して入浴日を決めています。	一般浴・リフト浴・リクライニング浴に対応できる機械浴の設備があり、身体状況に関わらず浴槽での入浴が可能である。入浴予定表をもとに週2回の入浴を基本としているが、体調・気分・拒否に応じて日時を変更したり、清拭・更衣で保清する等柔軟に対応している。実施状況は、介護ソフトの入浴記録で把握している。緑の人工葉やアヒルの飾りを設置し、清潔で明るい雰囲気のある浴室で入浴がより楽しめるよう工夫している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室での宿泊になるのでプライベートのある環境で休んで頂いている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば、薬情報や薬手帳の持参を依頼している。服薬間違いがないように確認しながら配薬を行っている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや体操、他利用者と話せるように配慮し気分転換と刺激のある時間を提供するように支援している。		

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスが5類移行になってから、外出行事を増やしています。くら寿司への外食、バラ公園への外出をしました。1週間に1回はオアシスの周りを歩く機会を設けています。	気候の良い時期には、週に1回以上外歩きの日を設け、利用者が施設の外周を歩く時間を設けている。駐車場での行事や敷地内の清掃活動への参加等、利用者が戸外で過ごす機会づくりに取り組んでいる。利用者の希望に応じて、外食や喫茶、バラ公園への外出等、外出行事を再開している。今後も、利用者の希望やニーズに応じて、買い物ツアーや季節の外出行事等の実施を企画している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては、制限をせずに自己管理をお願いしています。ご希望があれば1階にある自動販売機と一緒にいき、ご自身で選択してもらいう機会も設けています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参をされ、ご家族へ連絡されることがあるので呼出音がなっている際は声掛けを行う。また、帰宅願望等で家族へ連絡してほしいと訴えがある方へは電話を繋ぐことも対応している。		
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わってもらえるように季節の作業療法や壁紙を作成している。	入り口のボードに、利用者が作業療法で作成した季節に因んだ作品(かき氷)を飾っている。共用空間は広く、数種類のテーブル席とソファを分散して設置している。テーブルやソファの配置・人数・配席、一人で過ごせるスペース作り等、利用者個々の意向に応じて居心地よく過ごせるよう配慮している。平行棒を設置し、床面にラダーを作り、長い廊下と手すりを歩行訓練に活用する等、リハビリスペースを設けている。作業療法・個別レクリエーション・個別リハビリ、数種類の体操・体を使ったゲーム等の集団レクリエーション、音楽療法、家事参加、生活リハビリ等、楽しみながら心身の機能低下が予防できるように取り組んでいる。	

オアシス宝塚小規模多機能型居宅介護事業所

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、座席の場所の配慮をして、話しやすい環境づくりをしています。気分よく過ごせるように配慮している。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間、ご本人が安心できる物であれば持参依頼をしています。	泊まりの部屋は9室あり、ベッドとナースコール等が設置されている。収納については、利用者が道具を持ち込んだり、事業所の備品を貸し出す等、利用者個々の状況に応じて対応している。寝具はリース対応しているが、使い慣れたものを持参して使用することも可能である。衣類や生活用品、また、希望に応じて、ラジオや携帯電話等使い慣れた物の持参を自由にし、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。必要に応じてポータブルトイレやセンサーマットを設置し、不安の軽減や安全確保に努めている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自己決定を尊重した介助を目指しています。 ご本人の出来ることを奪うことがないように付き添いや見守り、必要に応じた介助を心がけています。		